大正元年十月一日納本發行（毎月一日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第九巻第九號

目次

◎就職の辭（一）……河井道子
◎店頭に飾れる人形を見て（三）……山田千代子
◎現時の米國女子青年（七）……星野愛子
◎御大葬奉送記（九）……二階堂德代子
◎フース大將傳の數節（一三）……白井胤祿
◎在米日本人基督教女子青年會創立次第（一七）……安孫子餘奈子
◎哥林多後書の研究（二〇）……柏井園
◎シリヤ人の歌（二四）……小此木松子
◎會の消息（二九）……
△日本基督教女子青年會△在米日本人基督教女子青年會の創立、同趣意書並に規則草案△北米合衆國日本女子基督教青年會の創立、同規則
◎編輯だより（三一）……

日本基督教女子青年會發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子寄宿舍

基督教女子青年會は

牛込區納戸町四十五番地

小石川區水道町二十八番地

の二ケ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲めに及ぶ限りのお世話を致して居ります。

右の寄宿舍は門倉ふじ子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります。東京に家庭又は適當の保護者のない方々をして、家庭に於けると同樣に勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります。入塾希望の御方は願書を監督者門倉ふじ子氏或は大西絹子氏に宛てゝお送り下さい。

尙同舍は一時の宿泊も許しますから、講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を計る事が出來ます。

寄宿舍委員長　今西　糸子

「女子青年界」

一、「女子青年界」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する雜誌也。

一、「女子青年界」は一年分郵税共五拾錢、一部郵税共金五錢です。

一、日本基督教女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

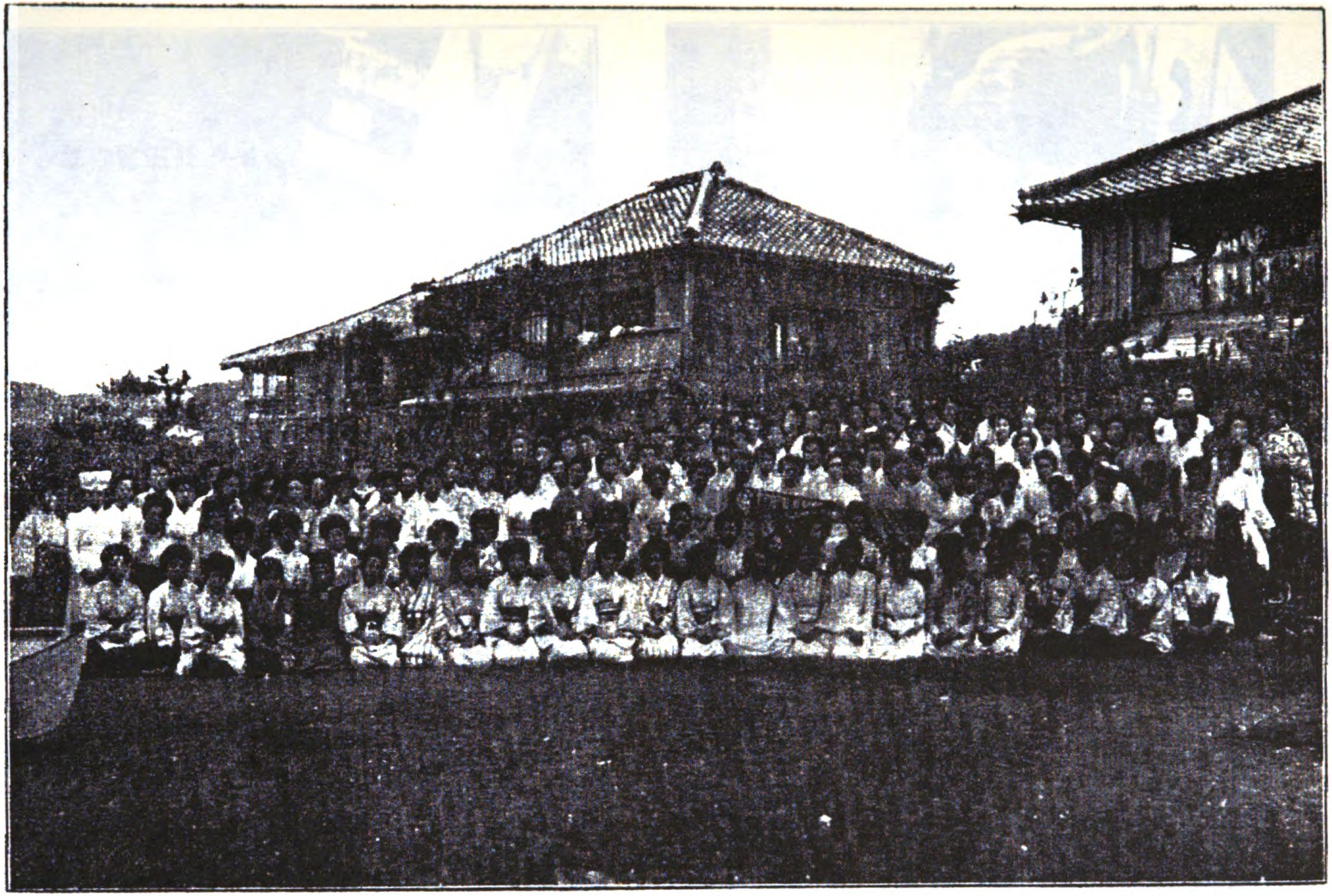
委員長　井深花子
副委員長　關見嘉子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員
萬國學生基督教同盟會委員　河井道子
「女子青年界」編輯主任　小此木松子

東京在住委員
津田梅子　エ、ピツエス
鈴木歌子　小此木松子
長谷川喜多子　二宮貞子
ミス、エム、ナイト　サ[illegible]

地方在住委員
大阪　廣岡淺子　大阪　鈴木李子
京都　佐伯小糸子　京都　ミス、デントン
京都　松田道子　廣島　ミス、ゲインス
名古屋　ミス、ウヰン、ウヰルソン　函館　ミス、ブ[illegible]
岡山　上代淑子

幹事
日本基督教總幹事　ミス、シー、マクドナルド
同幹事　河井道子
同幹事　[illegible]
東京基督教總幹事　エム、エル、マジエヤン
同幹事　[illegible]
同特志幹事　[illegible]
「女子青年界」編輯者　小橋三四子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



横須賀大津に於ける日本基督教女子青年會第七回夏期修養會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

上 摸擬店　下 食堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

就職の辭

河井道子

日本基督教女子青年會は、今春本邦人の總幹事を一名置くとの議案を中央委員に提出いたしました。抑も本會を創立し、その發展を謀らん爲に、外國より派遣されし外國の幹事諸姉の、忠實熱心なる御盡力は會員一同常に目撃して居ります。併し今や本會も追々諸方面に進歩發展しやうとして居ります際、若し青年會なるものは世間より外國のものと誤解さるゝ如き事ありては、將來の事業にも影響いたしますし、又我等の中より誰か幹事の任に當る者を出すべきは當然のことで御座います。かくして從前の西洋の幹事等と共に相提携して、本會を廣く世に紹介し、有効なるものと致し度いとは誰しもの希望で御座います。然る處此の適任者として私が選定さるゝことゝなりましたので、二ケ月間餘の猶豫を乞ひて諾否如何を熟考の末、私は諸友人の親切なる教導、幷に勸誘と、會員諸姉の厚き同情とを神の御旨と知覺いたし、決然九月より幹事の職を拜命する事に致しました。勿論淺學、未熟にして、信仰の薄弱なる私、此貴重なる位置を占むべき器ではありません。必ず數多の失錯失敗を演じますは、火を見るより瞭然で御座いますが、本會を赤心以て愛する點に於ては、他に劣らぬと自信して居ります。何卒私の思慮淺薄にして、輕擧盲動、其他の缺點は御寛恕下され赤誠のある處を嘉みせられ、加之、益々諸姉の御示導と祈禱とを以て、本會の忠なる婢と私をなし給はん事を願ひ上げます。なほ本會は決して委員幹事等のものではなく、會の盛衰は各會員の如何に依るもので御座いますれば、相提携し、相裨補して、女子青年會の精神を愈々發揮致し度いと存じます。

殊に感謝に堪へざる事は、幹事招聘の議起るや、諸姉には其資金として莫大なる御寄附をなし下されし事で御座います。目下多端の際でもありますし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

別して學生會員方の如きは比較的に財政上御困難にも拘らず、此事業を喜びてお助け下れさし其御同情は恭く存じます。是非とも御芳志の無に終らざるを心より祈りつゝ居ります。

尚私事幹事となりましても、靑年會が專務でなく一週に三日は從前の通り女子英學塾に奉職致します次第故、學生諸子と縁遠くなるのではなく、却て本會と學校との關係よりして、一層親しく女子靑年の爲に働き得る機會を與へられし譯で御座います。

時下淸秋に入り活動の佳季となりました。會員諸姉の上に祝福の降りて、靈肉共に御健全にて、時々刻々御進歩の程を祈り申上げます。就職の辭に代へて一言御挨拶を申述べました。（大正元年九月十日記）

編者より

▲前號の編輯だよりにて、夏期修養會の寫眞掲載相叶はぬ由、申上げましたが、其の後其の筋より、海岸の景を含めるものを除き、他は皆公表の許可を得ましたので、此處に會衆一同の寫眞、幷に修養會一斑の模樣の窺はれ得る食堂や摸擬店の有樣を掲載致す事は、誠に幸に存じます。この食堂は五十疊敷きで、四方椽を回らし、山をも仰ぐべく、海をも見渡すべく、一週の間、朝に夕に樂しき會合の場所ともなつたのであります。

▲山室軍平氏の講演「攝理」は今月號に掲載致すべき筈の處、この講演ありし朝こそは、かの　先帝陛下の崩御に接し參らせたるにて、恐懼の餘りわが胸の轟き打沈めんとしてなほ能はず、御耻しき事ながら筆記の文字しどろに亂れて形を爲さず、われながら後にてこの文字を讀むに苦しみ、講師へも讀者諸姉へも御申譯なく、且つは殘念の極みなれど、これのみは遂に稿する事叶はず、餘儀なく掲載を見合はする事と致しました。何卒右寛き御心にお許しを願ひます。（三四子）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

店頭に飾れる人形を見て

神奈川師範女學校教頭　山田千代子

△店頭の人形と通路の婦人と

この頃東京や横濱あたりの店に能く見ますが、器用な人形が出來て居ります。皆さんも足を止めて御覧になるかも知れません。私も時々われ知らずその前に立ち止ります。私が米國に居りました時に、或店に參りました所が、餘り能く出來た人形が有りましたので今少しで話しかける所でした。其目付と云ひ、肉色と云ひ、丸で實物の樣でありまして、且つ美しいものですから、どんなに忙がしい時でも思はず立止つて見るので御座います。然し立つて見て居る中に、初は美しいと思ひますが矢張人形だと云ふ感が致して參りまして、自分に喜びと樂しみを與へてはくれますが、滿足を與へてくれません。何故でしようか、つまり其人形の中には隱れたる力がありません、隱れたる命がありません。けれども人形としての本分を盡して居りますから、人形に不平を云ふとは出來ませんが、面白い事には眼を轉じて其の人形の前を往來して居る多勢の人を一人々々研究して見ますと、種々ある中に人形の樣な人間を澤山に見ます。人形の時には不滿を感ずるのは此方が惡いのでありますが、人間の中に人形を見た時には此樣な人もあるかと情けなくなります。自分が女子でありますから、男子の方は止めて置きまして、女子の

方を見ますと、婦人の方に人形見た様な人を比較的多く見ます。是は人事でなく自分も人形の前を通つた婦人の一人でありますから、他人も私を見て居るに違ひありませんと自分を省みなければなりません。

△蔓の働らき

他の一例に付いて考ふればスケッチブック『宿の妻』中に書いてある婦人を思ひ出して戴きたいあの若者は婦人は蔓の物に絡んで生命を全して行く様なもので、男子は蔓のからまる柏の木の様なものであると云ふて居る。得意の時代に於ては蔓は柏の木の蔭で生長し、只弄び物か飾り物の様に思はれて居りますが、然し雷が落ちて柏を切断したなら、蔓は全く位置をかへて、片々の柏を支へ、生命を保たせて居ります。是れは私の最も愛読して居りますものの一ッです。何故かと云へば前にお話しした人形とは趣を異にしいざと云ふ時に生きた力を持つて居ります。此二つの例を考へて見るに、後の蔓は柏の木を支へて行く隠れたる力を有する事を表はして居ります。日本は戦争後他國人の研究物となつて居ります。外國人の云ふ所を能く噛みしめて見ますと、日本には比較的人形の様な婦人が多くして生きた命のある者は少い事です。活動とは獨身で宗教界又は教育界に働く計りを言ふのではなくて婦人のために備へられてある家庭の中に妻とし母として活動するこそ立派なる婦人の天職であります。然し是れは家庭に入つてから初まるものでなく、親の膝下にある時から人形らしいものにもなれば、又人間らしい人にもなれるのであります。

△隠れたる力とは何ぞ

宿の妻中の隠れたる力とは何でありませうか。是れは愛なのです。あの婦人の中には愛があつたと云へば皆は定めし誰でも有つてるゝと云はるゝかも知れませんが、親子の愛とか何の愛とか云はずに、他の方面から二つに分けますと、人に就ける愛、神に就ける愛、この二つになります。前者は普通の愛で人より出で人に返るものですが、後者は神より出でゝ神に歸る愛であります。コリント前書十三章に『愛は寛忍をなし又人の益を計るなり。愛は妬まず誇らず驕傲らず非禮を行はず』となり。斯る愛は人間にありますが、私がキリスト教に入る前に考へたとは、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この一句であります。親の愛とも何とも書いてありません、私どもは九人か十人の人々の中にでも皆の益は中々に計られません。愛は妬まず。誰も嫉は好もしいもので無い事は知つて居りますが、自ら胸を探ぐる時はどうでせう。此聖句中に記してある様な愛は、自然に持つて居る者ではありません。

△感ずべき婦人の實例

米國に居りました時或人が申ますには、あの婦人と交際すると益があります、實に德の高い方でありますと云はれました。如何なる點がと聞きましたが今日は敎へぬと云はれた。それで一つ研究して見樣と思つて手續をして交際して見ると、すぐに分りました。その家の歷史と云へば其婦人は何不自由なき家の敎育ある令孃にて、或商家の大家に嫁がれた。十年程過ぎたある日、良人なる人がいつになく元氣無く而もいつもの樣に打明ない事がありました。伺つては失禮と思ふて其儘に一週間程經たる或る日、堪り兼ねて尋ねました所が、一方には俄に盲目となると云ふ宣告を受けて、丁度罪人が死の宣告を受けたも同樣に感じ、同時に信用して居た番頭は店にあつた品物を皆抵當に入れて仕舞ふて何處へか最早居なくなつてるので、何と云ふて妻に打明て良いか分らなかつたのです。然るにこの婦人はワシントン著書中の婦人の樣に、騷がず驚かずそれ丈ですかと云ふて、早速小さな二階の借間をなさいまして、臺所を仕切りて兩眼の見えぬ夫と、小供とで住はれました。私のお目に懸つたのは十二年の後です。その間に負債を返して仕舞ひ、學校時代のノートを調べ、本を讀み、大學の家政科の先生に出られました。そして二人の小供は立派な人になり、一男はハーバート大學の卒業生でして、女子はウエルスレー大學へ入學の準備中でした。奥さんは下女の仕事を皆なさいまして、寢る時はきつと新聞を良人に讀んでお聞せになるので、他から見ては、良人が目が見えぬ樣には思はれません程です。其當時は可成りの俸給をとつて居られても、矢張り女中を使は無いで、其お金にて旦那樣を音樂會などに連れ行かれます。成べく以前有福なりし時との差をひどく感じさせないためです。私は實に感じました。

△神は愛なり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然しこれは妻が夫に對する愛でありますが、この聖書中の愛はこれ以上な者であります。これは言葉を變へて云へば神御自身です。約翰第一書に『愛するものよ、我儕互に相愛すべし、愛は神より出れば也。おほよそ愛あるものは神によりて生れ、神を知るなり、愛は卽ち神なればなり』と云ふ句があります。この父の中にある愛は神の現れであります。神は吾々の如く罪多くして勝手なる者の爲に十字架の苦を受られました。是より以上の愛はありません。宗教の必要は此所にあります。神社や、佛閣にお詣りをするは老人の仕事で、キリスト教に入るは暇の時の仕事の樣に思つてる人も少なくはありません。先日或る人が話して居る時に其方の申さるゝに、私はキリスト教は實に尊いものであると思ふが、今私は小供が有りますから中々暇がありません、それが濟んでからゆつくり信仰致しますと申されました。私はふき出し度かつたのであります。其時私はそれは逆まではないかと申しましたら、えゝ本統にそうで御座いますね。いつ死ぬか分りませんから、死んで行く先を極めてから、小供を育てる方がいゝかも知ませんと申されました。これは間違つて居るのであります。私が信仰を起しましたのは二十一歲の時でありました。宗教は決して來世の爲に死んで行く後の爲だと思つてはいけません。又明日の分らない病人の爲でもなく、罪人の爲でもありません。人間の人間となるに必要なのであります。皆さん御自分で人間たる價値があると思はれて居られゝばそれは別問題ですが、然し一寸でも自分は人形見た樣な人間では無いかと思つたなら、其時神の力の要を見とめるのです。私が信者になつてから疲れた時、得意の時、失意の時、苦しき時、喜びの時に、一種の力となつたものがあるとすれば、其力を感ずる時はいつも神の共に居ます時であります。活る力となつて私が助けられたと思ふのは唯神から來た愛のみであります。このお蔭で缺けた私も本分を完うする事が出來るのであります。私が自分の考へを御話し致す事が出來るのも、神の惠の證であります。私が今神の愛をとりさつて、其より離れたならば、店の人形よりもつと缺た醜きものであります。忍耐、謙遜、柔和などの德は決して持たれないのであります。又此ような德を自然に得る事は出來ません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△神の御前に價値あるもの

かくの如く人間の價は決して外形にあるのではなく、心の中の力に依つて價値が定まるのであります。私が日曜學校で世話をした生徒の一人が、只今大學醫科を修めて居りますが、書を寄せて申ますには、學生時代には先生と一致が出來なかつたが解剖學を學んでからはじめて人の價は外部でなく、內部にあることを感じました。眞に昨日まで美しき衣や、帶や、時計などで價ある樣に考へられた人でも、一朝病氣になつて裸で手術臺の上にのぼる時は、外部の飾りは何の價あるものではありません。その身一つで價値をつけられるのであります。又美人でも皮一枚はがせば、內臟は實にあはれ醜いものでその美は唯皮膚外部のみが多いのでありますと申しました。私も深く感じました。

人は一度外の美といふものを離れて神の御前に近づく可き時が早晩來るのであります。其時の價は外部のものではありませぬ。現今の人の多くは外の飾りに空しき勞力を費して居ります間に、キリスト敎を學んで、淸き身の飾りとし、又飾りと仕度なさいふ念を持つて勤め居らるゝ方々は、實に日本の飾りとなる可き人々であると非常にたのもしく思はれます。然し之は日本一般の傾向ではないのであります、何卒益々神にすがり、進んで戴き度のであります。神を信ずることは死に行くためではなく、世を渡る爲に最も此の力なくてはと存じます。（文責記者にあり）

現時の米國女子青年

星野愛子

△盛なる眞理探究心

現今の米國女子青年の思想の多種多樣なのには、始め自分はびつくり致しました。殆ど一人一人異つて居るといふ有樣で、從つて宗教も極く古い形式的なまた單純な信仰を持つて居る者もあれば、理論的哲學的の信念を持つて居る者もあり、また無神論者もあるので、餘程打解けて參らなければ、宗教の話などは容易に出來ません。然し非常に感心なのは、之れ等の人々が眞理を求めやうとする念は盛んであつて、眞劍に研究して居り、又自分の信念を少しも

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

僞らないで發表して居ります。それで無神論者も美はしい信仰を持つた方に向つて、實に自分はその信仰が羨ましいと思ふが、自分はまだどうしても其處迄行かないと云へば、一方では之れを決して輕蔑迫害せずに、深き同情を以て之の人々の尚一層深い研究を待つといふ有様であります。この眞摯にして寛大の風は、實に學ぶべき點であると思ひます。

△修養と共に活動あり

また彼方の青年女子は内的生活よりも稍もすれば活動といふ事に走り過ぎはせぬかと思ふ傾きがありますが、然し我れ〳〵が修養に志せば活動を忘れ、活動に興味を排てば、修養を全く怠るといふ有様から見れば、さすがに修養と共に活動するといふ、美風を持つて居ると申してもよろしう御座います。大學の學生間にも一つの會が組織せられて居つて、此處には基督教徒以外の人々をも共に加へて、互に修養する助けともすれば、有益な仕事をも企てゝ居ります。勿論司會者とか、役員とかは基督者でありますが、たとへ無神論者でも活動の方面に共に働らくやうにしてあります。その事業としては校内の僕婢を教育するとか、貧民の友達となつてその教導を務めるとか、基督信徒ならば日曜學校の兒童を教へるとか、種々あります。

△事務に長けたり

之れ等の事業に關する事務は極めて事務的に行はれて居ります。殊に集金の方法などは巧みなもので、前に述べた學生間の團體に於ても、活動に要する資金は皆自身で集めます。各會員は年の始めに自分の經濟から割り出して、これ〳〵の寄附が出來るとて、寄附高を契約すると、會の方でもその年の豫算をたて、皆の契約した金高を合して之れに照して見、收支相償はなければ、その不足は教授方や有志の寄附を仰ぐのであります。一方寄附を契約した會員は月々の入費を節約して、毎月必ず袋に入れて自分が出す僅か斗りの金が有益の事業に用ひらるゝのを特權の如く感謝して出しますし、集める方は熱心に敏捷に事を運びます。かゝる事を見るにつけても、個人個人の思想は一致して居らぬにしても、基督教國としてこの教への精神は深く廣く行き渡つて居ると思はれるのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御大葬奉送記

二階堂徳代子

かけまくも畏き九月十三日の午後四時頃、私共は二重橋前芝生内に參列致しました。

あはれ 明治天皇陛下には國民一同が天に祈り、地に哭して御恢復を祈り參らせた甲斐もなく、神去りましまし、愈々今日は東都を御出立、永久に還りまさぬ御行幸にとならせ給ふのを御拜み申し上げんとて、こゝに私共はかしこまり奉ると思ひますと、胸が塞つて、恐懼措く能はぬ次第でございました。

常の日でさへ宮城近き此芝生のあたりなどにありましては、云ひしらぬ御稜威に、恐れ多くて自づと頭も下りますのに、況して今日はありし日に異つてこゝら一面には御榊や御篝火など立て設けられ、御道筋としての御かまへ嚴にしつらはれましたので、畏しこさは一入でございます。そして何とも名狀する事の出來ない悲哀の氣がひし〳〵と胸にせまるやうなので、私共は悄然と佇んで、悲しい事共を切に思ひ辿るのでございました。

やがて今まで點火されずにあつた御篝火には火か點され始めました。二重橋に遠い方から近い方へと順々に一臺づゝパッと燃え立つ時、夢路を辿つて居る心が現にかへるのでございました。

二重橋の方を仰ぎますれば、朝來の雲何時の間にか全く晴れて、實に清い大空、靜なたそがれ、太陽は今や沒せんとして、二重橋畔にかゝつてゐます。其夕陽大きく赤く輝いて誠に見事な珍しい入日でございます。それが分一分に寸一寸と落ちてゆくので

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ございました。時に取つての此有樣は、感慨一と通りではございませんでした。

ところへどうでせう、其邊から程遠くはない南の空へ、糸より細い新月が、銀色燦としてあらはれまして、大内山の西南のほとりに輝くのでございました。まあ何といふ光景でございませう。實に遠い昔の神話の事實を、今目のあたり見るやう、思へば昨夜までも降りに降つてゐた雨が、やう／＼止みはしたものゝ、まだ曇りに曇つて、而も此夜頃には雨かとの豫報さへ傳へられしに、此空、此日、此月、此御時に當つて、何と云ふ事でございませう。之れ全く　明治天皇陛下の窮りなき御德に、天體さへも感應してかゝる奇蹟否靈蹟（言葉が不穩當かも知れませぬが云ひやうがありませんから）があるのだと思はないわけには參りませんでした。

此時は既にこゝの大路の兩側に整列すべき軍人は勿論、儀仗兵たるべき陸海軍人、又は御葬列に從ひまゐらすべき文武百官を始め、御奉送申し上ぐる諸校の學生、さては英國よりの儀仗兵など、悉く定めの場に整列して居ります。之れ等はどれ丈けの人數になるので御座いませうか、さしもに廣い二重橋前の拜觀場は、人を以て埋められて居ります。實に無慮とはかう云ふ場合の事でございませうと存じました。其無慮の人々が同じ心に刻一刻と近づく御時に向つて肅然たる有樣で、何の動搖も見えなければ咳嗽の聲一つ聞えませんでした。

世は靜に／＼暮色に包まれて行きますと、御篝の火はひとしほに燃えまさり、電燈やアーク燈の光と照りはえて、眞晝を欺く樣でございました。かねてより大内山の木かげにさては御池のほとりに塒を求めて居た鳥ども、今日は常ならぬのに悲しみ迷つたのでございませうか、此時宮城のかなたから白く大きな鳥二つ、御大路の上を高く驀地に二聲三聲鳴きかはし、靜りかへつた世の靜寂を破つて、飛んで行つたのがありました。

やがて號砲の轟、愈々御靈轜御發車の合圖でございます。あゝいまはの此時、九重の御わたりの御有樣や如何にと拜察しますれば、今更のやうに胸もつぶれましたが、さはれ永久の御見送りどうぞよく拜み奉り御有樣を心肝に銘じて以ていつ迄も語りつぎ云ひつぃで　明治聖天子をしのび奉る料にもと念願して、列をたゞして立ち並びました。私共の前はす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぐに御大路でございまして、一列の兵士が整列してゐます。小高い芝生に並んでゐます私共からは、兵士の頭越しに勿體ない程よくこゝら一面に見やられます。然し其御大路の巾は四十間とか聞きました。其眞中を、通御あらせられますこと故、御列までは二十間の間がございます。いくら明くても夜陰の事ではあり、それに目もくれ、頭もぼーつとなる樣で、御列の一々は迚もよく拜み得ませんでした。まして後の方へ十重、二十重に立つた方は御靈轜車の御上の方だけを、漸く拜み奉つたと云ふ事です。

さて號砲につゝいて弔砲が打ち出されました。すると二重橋下の御濠の側に整列してゐました一隊の軍樂隊は哀の極を吹奏し始めました。實に悲痛なる音色でございます。奏し終つて其隊は除々に進行を始め、砂で淸められた御大路の眞中に出ました。こゝに御大葬御先驅の儀仗兵は、警部を先き立て青山へと行進し始めたのでございます。

此儀仗兵が半數程も出發したかと思はれます頃、二重橋上には御松明が澤山見えました、御行列の松明仕人が、今御橋を渡らるゝところと拜みました。此方陸軍儀仗兵の後には海軍儀仗兵が續き始めました。此時御橋の上には幾流の御旛が粛々と進まれるのを仰ぎました。やがて海軍の儀仗兵が出發し終らうとする頃、松明仕人のかげは御門から此方へと見えられまして、間もなく海軍儀仗兵の後へと續きました。すると二重橋の邊からは樂師の樂が心を刺すやうに響いて參ります。松明仕人は早や私共の前の御大路を進まれるのでございました。昔の大宮人のよそほひあてに神さびたる樣をまのあたりに拜む心地は、たゞ夢の樣でございました。さう云ふ方々が仕うまつれる間々には御皷、御鉦、御旛、御胡簶、御弓、御楯、御桙別しては、月像、日像の御旗、それに續いては御箭櫃、御弓櫃 御眞榊、御饌櫃、御弊櫃をものせられての御行列、うつし心もなく拜んでゐますと申すも畏しこき次第でございますが、腸もちぎれよと許りの御車の哀音に身がすくみました。牛飼に白い手綱をかいくられて、御供仕る御牛、御靈轜には聊かの御ゆるぎをだに參らせじとやうに歩む樣は、健氣にも頼もしう、涙の種でございました

あはれ御靈轜を前に拜みました時は、餘りに畏れ多くて、まともに仰ぎ奉る事は出來ませんでした。たゞ心をしづめて御奉送の微衷を專念胸にくりかへ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すのでございました。かくて天皇陛下御名代宮殿下にはとくに前をお通りになりまして、御喪使總裁宮殿下の御後姿が彼方へとならせられるところでございました。

御靈轜はもうづつと彼方へとならせられました樣ではございますが、哀音はまだひゞいて參ります。總裁宮殿下に續いては親王殿下や王殿下、其後には皇族附武官などが御供遊ばす樣に、前以て新聞などで讀みましたが、もうどなたがどなたやら、たゞ立派な方々が限りもなくお續きになる事だけしか分りませんでした。其後には又陸海軍の儀仗兵一隊毎に哀の極を奏でゝ進んでゆかれます。又一隊の英國水兵も、其軍樂隊と共に儀仗兵として列に續かれました。其立派な態度は何とも申樣がございませんでした。この軍隊は我が同盟國のかと思ひますと、嬉しうございました。それにつけても莊嚴無比千古に絶した立派な御行列に、かゝる立派な他國の軍隊をまで從へ給ふて、威風堂々と大行幸遊ばさるゝ明治天皇の御威稜は萬古の史上に照し、宇宙に誇るべきではございませぬか。御行列の全く出發し終つたのは、十時四十分頃でございました。

○　武島羽衣

癒えませと御門の橋の二重にも三重にも祈る天皇逝きましぬ

天皇により名は知られたり日の本の名は知られたり海の内外に

御車にしかるゝ石のきしりまで悲しくきこゆ青山の原

○　下村千王城

ひしひしと奈良人たちのふることとの今身にしみて御柩おくる

御車よとくなめぐりそふたゝびは歸り來まさぬ行幸ならずや

御柩をおくる今宵の心もて我れは一世を國にさゝげん

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ブウス大將傳の數節（上）

白井胤祿

此の二月ほどの間に人の心に痛切に響く大いなる出來事が少なからず起つた。曩きには國と民との爲に一身を忘れて盡された偉大なる皇帝を失ひ、其の後一月ならずして基督と貧民との爲めに一生を献げた偉大なる傳道者を失ひ、今また節義と忠君との犠牲となつた偉大なる將軍の死に逢うて、鋭い刺激を受けて居ることである、此等の偉人の性格を考へて來れば、取り〲に學ぶべきものが多いことである。茲には救世軍の大將ブウスの傳を讀んで感ずる數節を書いて見やうと思ふ

※

ウヰリアム、ブウスは千八百二十九年英國ノッチンガム市に生れた。其の父は自分の腕一本で身代を造つたこともある敏活なる事務家であつたが、後ち不幸が續いて大將の幼い頃は隨分困窮に陷つたさうである。十三歳のときに父が死んだので、大將と二人の姉妹と都合三人の幼い者は母の手に遺された。氣の弱い婦人ならば死んで了うやうな辛苦もあつたらしいが、此の母は快活な氣象と強い信仰とに由つて此間を立派に切り拔けた。此の母にして此の子ありで、ブウス大將の傳記の第一頁には賢い強い母の德の光が輝いて居る。『神は然るべき時に及び、凡ての事を我等に示し給ふ方である。世間の事が我等の思ふやうにのみ往かぬのは、畢竟神の恩から出た計ひである。若し萬事注文通りにのみになれば、我等は肩を車輪に當てがふて押すべき餘地がなくなるではないか』とは此の賢い母の確信であつたと云ふことである。偉人の背景には此う云つたやうな健氣な女性が大抵描かれて居るのである。ブウス大將は『此の善良なる母を有つて居た』ことを誇りとして居たのである。

※

此う云ふやうな家庭であつたから、ブウス大將は久しく學校の敎育を受くることが出來ず、十四五歳の頃、或る商家（質屋だと云ふことである）に雇はるゝこととなつた。彼は屢々云へる如く『自ら造れる人』であつた。學校の敎育を多く受くることは出來なかつたが、實際上の學問は注意して勉强した。書物ばかり讀むのが學問ではない、彼は之よりも人間學を學んだ人であつた。患難の敎室で色々な經驗

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の學課を修め、自ら助け自ら努め、自ら造り上げたのである。我々は決して自分の境遇を呟いてはならぬ。何んなに不仕合に見える境遇でも、志さへあれば必ず其の途が開かれる。我々に最も大切なものは自ら造つて往く精神である。何んな荊棘の中でも進んで根氣强く開拓して往けば、何時しか立派な畠になるのである。

　或人は人は再び生れ變らねば眞實に宗敎の深いところに達することは出來ぬと云ふ。回心は信仰生活には最も大切なものである。ブウス大將は此の大切な所以を痛切に說いた人である。如何に墮落した人でも、如何に心の荒んだ人でも、眞實に悔改めるならば、新しい生活に入ることが出來ると確信して居たのである。而して彼自身にも此の回心の實驗を有して居たのである。十四歲の時或る夜二人の友人と散歩して、圖らずもウエスレアン敎會堂の前に出た。丁度其の時アイザツク、マアスデンと云ふ說敎者が巡回して此所で說敎して居る最中であつた。友だちと共に打ち連れて中に入ると　非常な群衆で、只だ僅かに說敎者の聲が聞える位であつた。しかし『諸君、時計の音がコチ〳〵と響く度毎に世界の何處かに現世を去て永遠に旅立つ人がある。恐らく此く云つて居る今も、其の平生の罪惡故に、地獄に墮ちた人があるかも知れない』と云ふ眞摯な說敎者の警告は少年ブウスの腸に沁み渡るほど響いた。是れ彼に回心を起させる導火線となつて、其の翌年卽ち十五歲のとき其の會堂の一室で涙ながらに罪を悔いて一切を主耶蘇に獻げ、全く新しき生活に入つたことである。此の時から彼は最早己れの爲に生きず、唯だ神と人との爲めに生る者となり、靈的の光明に導かるゝ身となつたのである。

　使徒パウロは回心すると同時に、主よ我に何を爲さしめんとしたまふやと叫んだ。回心は只だ過去の罪に泣くのみではない。舊來の善くない習慣や汚れた生活を蹴破つて新しい生活に入るのである。ブウスはもと世俗的の少年で、隨分輕薄な友人と交つたり、小說などに耽つたりしたことがあるが、回心後は全く其の不健全な習慣を廢め自分の靈魂を益し、他人の德を建つるものでなければ一切手を染めぬと決心した。只に之れのみならず、其の生涯の事業も此所に見出し得たのである。米國の傳道者でチエム

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ス、カウエイと云ふが遣つて來た。其の『喜びを以てエホバに事ふ』と云ふ說敎は非常に少年ブウスの心を刺激した。後年彼は『余の幼な心に大いなる感動を與へたとはカウエイの如き者は他に無かつた』と云つた程である。カウエイと云ふ人は、非常に熱烈な信仰と非常に明快な頭腦とを兼ね有する人であつて『談話的の言語を用ゐて、眞一文字に福音の眞理を說き、常識から割出した諸種の方法を用ゐて人の決心を導くこと』などは、大いにブウスの聖き功名心を惹き起させたことである。自分も將來斯う云ふ人物になつて、主の福音を傳ふるものになりたいものであると云ふ具體的の理想が出來たのである。

＊

一體彼は默つて居るとの出來ない活動的の性分であるから、其の精神に於て新しい生活に入ると共に、自分の救はれたやうに他人を救はねばならぬ。殊に世の貧しい人、餘り顧られない人の爲めに力を盡さねばならぬと云ふ覺悟を定めた。彼は實行的の人であるから、其の覺悟するところを直ちに實行した。同志の青年と共に店の勤務の傍貧民窟に出かけて路傍傳道を遣つた。其の後ウエスレアン敎會の定任傳道者となつて、傳道の手傳をすることゝなつた。其間にも荒野の試練があつた。何人にも大いなる志を立つるときには、其の器に從つて色々の試練を受けるものである。鐵でも金でも鑛山から掘り出したままでは價値がない。幾度も火で鍛はれて始めて純良なものとなり、其の眞價が現はれることである。ブウス大將にも試練の野があつた。千八百四十九年甫めて二十、故鄕を辭して倫敦に上つた。大いに爲す所あらんとする壯志を懷いて出かけたのである。倫敦に於ても或る商家に勤めながら傳道に熱心して居た。其の頃彼の心に殊に慕はしく思ふて崇拜して居た人があつた。其れはヂョシ、ウエスレイである。其の精神に從つて、追擊的に人の靈に迫り、聖き生活を高調し、統一ある運動をなさんことを心懸けた。然し彼が倫敦市民を相手にして說敎した當初は失敗であつた。彼の說敎は單純な實際的なもので、都人士の喜ぶところでなかつた。或者は彼に向ひ『青年よ、君の說敎には議論の分子が足りない、是れ畢竟君が無學の爲めである』といひ、又或者は『君の說敎には、威嚇の分子が多過ぎて可かぬ』などゝ批評したさうである。それから終に所屬敎會に傳道者の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

志願をしたけれど、今は必要がないと體好く斷られて了つた。其んな有樣で彼は失望の餘り一時は濠洲に往つて監獄署の教誨師にでもならうかと考へた。然し實行はしなつたが兎に角失意の狀は想像するに餘りある。米國の偉大なる傳道者と云はるゝムウデイの如きも、彼が傳道し初めた時分には狂氣せるムウディと侮られ、誰も之が他日世界を動すやうな偉人物とならうとは思はなかつた。如何なる駿馬も伯樂に遭はねば駑馬で終るであらう。ブウス大將と云へば二十世紀の傑物として世界の人が尊敬する此の人にして、尙ほ此のやうな時代のあつたことを思ふと、我々には色々な慰めと勵しとを與へられる。

※

その後彼は單獨で路傍傳道を始めたところが、當時ウエスレアン敎會內に起つて居た改革運動に與するものであらうと云ふ嫌疑を蒙り、同敎會から放逐された。其んなことから此度は眞實に改革派に投ずることゝなり、相變らず盛に傳道して居た。すると此に二人の知己が現はれた。其の一人は靴屋の主人ラビッツと云ふ資產もあり思慮ある人であつた。千八百五十二年二十三歲の誕生日に當り、彼は終に全く職業を擲つて傳道界に入ることゝなつた。是は靴屋の主人が單獨で其の費用を支へて其の志を成さしめたのである。此に面白い逸話がある。『貴君は凡そ幾程あれば、食つて傳道が出來ますか』『さやう每月十二志（六圓）もあればパンとチイスで傳道することが出來ると思ひます』。『何、十二志！何ぼう儉約しても、まさか十二志で食へるものではない。少なくも二十志やそこらなくては』。此んな問答があつたさうである。如何にも彼の質素な節約な心懸けが好く現はれて居る。先帝の御生涯と云ひ、乃木大將の平生と云ひ、又此のブウス大將と云ひ實に自分一身のことは忘れて、他の爲めに身を投げ出して居る。我々は此のやうな眞面目な獻身的な人の實例を目の前に見て居るのである。實物的敎育を授けられて居るのである。輕薄な、無責任な今日の世の中には此ういふ儼正な敎訓が甚だ大切である。さてブウス大將は自分の價値を認められず、失望して居るときに、此う云ふ知己を得たのであるから、如何に嬉しく思つたことであらう。世の中には捨てるものがあれば必ず拾ふものがある。此の外に今一人の優しい知己があつたが、是れは次號に記すことにしやう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

在米日本人基督教女子青年會創立の次第

在桑港　安孫子餘奈子

左は津田梅子女史の令妹安孫子夫人より河井道子女史に宛てゝ送られたる私信にして、外國に始めて、設けられたる日本婦人の青年會を記憶し、讀者諸姉と共に之れを祝さんと欲して此に掲ぐ。

當地女子青年會設立の事は、私共の素志で御座いました。丁度昨年先生の此地へ御出の頃から、其の事を望んでは居りました。御出立の後米國人の女子青年會の地方委員の一人が、日本婦人間に女子青年會の支部を作りたいからと申され、當地在留の奥さん連中を訪問されました。其の時私は御紹介かたがた御同伴申しました。然し在留の重立ちたる夫人連には基督教者は誠に少數にて又英語の自由な方も少いので、米國婦人と共に女子青年會を上流日本婦人間に組織する事は非常に困難ですから、好機の至るのを待つ事にしてありました。地方委員の此事に熱心なミス、ピーディは病氣の爲め辭職され私も身體の勝れぬがちで今年五月頃までそのまゝになつて居りました。然る所當地日本人基督教諸教會の同盟なる傳道團といふのがあり安孫子も幹部の一名ですが、婦人間にも女子青年會の樣なもの丶組織されては如何との相談がありました。先年の米國婦人の申込みもあり、少數ながら在留の基督教婦人が立つて一つ女子青年會を起すなら、在留の所謂重立ちたる夫人連も賛助會員として加はる事も出來、これが第一によい考へと賛成し、私共基督教婦人二十五名程發起人となり、會を組織する事となりました。

會の規則は米國のと日本の女子青年會のとを參考として、牧師方に御助力願ひ作り上げました。そして度々の相談會より總會を開き評議員をも撰み、そして評議員の中より役員を定め、一ケ月程前漸く役員は定まりました。會長はメソヂスト教會の小室牧師夫人、副會長は森下夫人（實業家の夫人）會計は宮崎牧師夫人、幹事は小林夫人（傳道團の幹事小林政助氏夫人）そして總委員長として私は御受けを致しました。私は前申上る通り身體も恢復致しましたし、家庭の事情も許るし、他の人々より比較的時間がありますから、時の許す限り、力の限り、此よい事業に盡力致すのは、幸福の事と信じ、日夜出來る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけをつとめて居ります。先日來隨分此事に就ては奔走も致しましたが、誠に幸福な事には只今まで非常に好都合に行きました。眞に私のやうな淺い經驗の力の無いものゝ事とて、萬事骨の折れる事も多く、幾度か日本の女子青年會の御困難と御苦心と御盡力に今更ながら多大の御同情を持ち、遙に敬意を表しました事です。實に一つ事業を起すとの六ケ敷き事善事の爲め働く事の如何に犧牲獻身の精神を要するかを悟りました。今後益々修養を致し奮勵努力致すべき事と祈つて居ります。

私共の女子青年會は在米日本人女子基督教青年會と大層廣い意味の名をつけました。桑港のみでは餘り小さい會になりますから、加州全體の日本人も含む意味でかう名けました。それでヲークランド、バークレーは無論、他地方の日本人に加入して戴き、將來にはサクラメント支部など申すものをつくり度いと思ひます。桑港市米國人女子青年會の幹事なるミス、ホービスなる婦人も私の友人にて熱心にお助け下され、此婦人は私どもの會を桑港女子青年會の日本人支部にするやうにと勸められます。けれども私共は多分獨立して地方委員の管轄の下に本部に屬する事となりませう。ミス、ニゴツクといふ方が地方委員のうちの外國人掛で、大變助けて下さいます。

事業の第一としては婦人の寄宿舍を設立する事としました。學生は無論時には既婚の婦人をも入れますつもりです。當地の從來の婦人ホームなるものは、或る一つのミツシヨンの働きであり、宿泊する婦人中には、如何はしい場所へ參つた婦人も折々入りました爲め、よい人は泊りません。それで眞面目な正しい婦人の宿泊所が無いのですから、此寄宿舍は第一に入用なもので御座います。それに當地は外國でありますから、日本婦人で隨分浮浪して居る人も多く、此事業は實に幾多のよい事が出來ると存じます。それから御承知の如く寫眞結婚で毎船五六十人の婦人が上陸しますけれども、其内には米國風を少しも知らぬ婦人あり、良人たる人もこのやうな寄宿舍へ一二月でも妻君を預けて見習はせ度いとの人もあるよし故、此種の婦人も入れるつもりです。それから私共一つ大切な目的があります。それは出來得べくば寫眞結婚の弊害の解決法の一助として、青年會の事業を通して良法を講じ度いと思ひます。「中略」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私共目下全力を盡して此會の基礎をつくつて居ります。第一に會員の募集につとめまして、もはや百四名出來、二百名は間もなく出來る見込みです。そして女子青年會館設立費として、金五百弗日本人間に募つて居ます。實は寄宿舍は早や既に一つの家を借り受け、監督者として大久保牧師夫人(老婦人)假りにそこへお住居下さつて居られ、もはや二名入舍して居ます。

家具代及び移轉費の五百弗を募集する爲めに、私共は盡力した結果、昨今意外の好結果にて、一昨日までにはや三百弗余集りましたから、あと二百弗は容易なる事と一と先づこれで安心し始めた所です。そして七月中に發會式をするつもりです。地久節にするつもりでしたが、會員も募集中であり、寄附金もまだ纏つてなかつた事とて、延期して充分準備が整つてから、世間へ發表するつもりです。私は皆樣の御盡力により、これだけに參りました事を感謝して居ります。これから事業の實をあげる事が必要で、困難も多いでせうから、お祈りを願ひ上ます。(中略)

米國人の女子青年會の婦人間に知人多く好都合です。先日かの有名のミセス、ハーストのプレザントンの邸內に講習會がありました。シルバー、ベーと同じやうなもので、私は一晩泊りで出席しました。紐育からミス、カンデー、ミス、テーラーお出でなされ、御面會致し、あなたのお噂も澤山致し、ミス、津田の話も出ました。ミス、カンデー、ミス、テーラー桑港へ御出での時、私の宅へ御招待して、日本人女子青年會の役員及び顧問に紹介致しまして、將來の打合せも致し好都合でした。ミス、カンデー等の滯在中發會式をするつもりの所、遂に其の運びに至らず殘念でしたが、準備が出來た上にする方、より賢き道なりと同氏等も贊成されました。

貴女のやうな有力な御方が當地に居られましたなら、女子青年會創立の際實にどのやうによろしい事でせうと思ひます。然し近き將來のうちには、是非再び此太平洋沿岸へお出下され、此私共の女子青年會の事業のため御助力を願ひます。(下略)

〇正誤　前號參會所感中第五十三頁に大谷ひさ子とあるは大呑ひさ子の誤植につき此處に正誤す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

哥林多後書の研究（三）

柏井園

第一章　の續き

さて日夜心にかかつて居たコリント教會の樣子如何であるか。遙々テトスを煩はして造つた書翰は何等かの効を奏したであらうか。聞きたきは山々なれど聞くも恐ろしいやうな感がしたであらう。けれどもテトスの顏の上に浮んで居る喜色は、彼が如何なる消息を齎し歸つたか略ぼ推測することが出來る。神の恩は感謝すべきかな。實に案外の好結果であつたパウロは自身に書いた手紙の文章があまり强きに過ぎたことを悔いざるにもあらざりしが(七〇八)これは杞憂であつたことを發見した。コリント教會の人も一時は人の言に惑されて本意なくも恩人を冷遇したものゝ、原々教會の父であつて一方ならぬ世話を蒙つて居るパウロであるし、殊に山の如き苦心責任に疲れて居るパウロをば憂愁失望を抱いて去らしめた後では、流石耻かしく畏ろしく濟まぬことをしたと云ふ感じが動き始めたであらう。其中テストは到着した。恐れ慄いてテストを迎へた(七〇十五)。パウロの涙を以て書いた書翰を讀み又テストの話を聞きてパウロが如何ばかりコリント教會の爲に心を惱して居るかを知つたときに、彼等は自ら責め又懼れた。彼等を誤らしめた人を譴責して是非早くパウロに會ふて破れたる情誼を回復したいと願ふやうになつた(七〇十一)。こはこれ雨後の月もれ出づるを眺むる樣にパウロの欝結したる心は解かされて、言ひ難き喜と慰籍と人を懷ふ心胸に湧かざるを得なかつた。物窮つて後通ず。是は人心一變の機が來たにも因るであらうし、又パウロの赤心が貫徹したにも因るであらう。一には又テトスが此の如き局に處して人心を融和せしむる才幹に富んで居たことに負ふ所多いであらう。そこでパウロは不日自らコリントに行くに先ち再びテストをコリントに遣し、之に托して書き贈つたのは卽ちコリント後書として傳へらるるものである。

實に此の手紙は眞情惻々として、偉大なる魂の自然で率直で又婦人の如く濃な情緒が一字一句の底に鼓動して居る。別けても己に敵した人々を餘り酷に責めないやうに頼み『斯かる人は多くの人の責めを受くること既に足れり、然らば汝等は反て彼を赦し慰むべし恐くは彼はなはだしく憂に沈まん……汝等何によらず人を赦すとあらば我また之を赦さん』（二〇六—十）と書いてある。彼は窮鳥を殺すことを好まなかつた。誰か深厚なる同情を以てこの書翰を讀まぬものがあらうか。

我等はコリント後書が今日まで保存せられたることを感謝する。之とともに知りたきは涙の書翰卽ち中間の手紙の運命である。これは全く失はれたであらうか。無論その通り思はれて居た。又今日でも然うであると主張する學者もある（ゴデー、サバチエ、ロボルトソンの如き）。又涙を以て書いたと云ふは今のコリント前書のことであると云ふ人もある（マイヤー、サンデー、デニイ、ベルナルド、ツアーン等）然るにハウスラートと云ふ獨逸の學者が大分前に「四章書翰說」と云へる假說を發表し、マギフエルト、シユミーデル、モフアツト、ビーク、ベーコンのやうな近世の有力な學者之に贊成し其の外にも贊成するが少くない。ハウスラート等の說の大意を云へば、コリント後書の語の四章卽ち第十章より十三章までは後書の終りの章卽ち第十章から第十三章までは後書の一部分でなくして之より前に贈つた中間の書が若しくは其の一部分が誤まつて後書の終に附着したものであらう。其の理由は如何と云へば、第十章以下の四章と云ふものは前三分のことば調子が全然變つて居る。前の部分は戰の後の平和の氣が滿ちて居るに引きかへ、後の部分に於てはまた鎬を削つて居る。之には彼自身に逆つたものを赦さし又赦してやれと書いて置いて、後の方へ來ると『すべての違逆者を罰せんと既に其の備を爲せり』（十〇六）と云つて居る如き其の一例である。之を連續した一通の書として見るときには說明し難い不統一と矛盾があると云はねばならぬ。故に大體から云ふと終四章は別個の書翰であるとする事が道理が多いやうである。因よりこの說に反對する側の人の擧げ得る點もないではないが、さまで有力なる者があると思はれない。ユーリヘルと云ふ學者は十二〇十八にテトスを遣した事を過去の事として擧げてあるが果してそが中書

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であれば現在の事になる譯で過去とならぬこの一事が議論を決せしむるに足ると論じて居るが、それは前に述べた如くコリント前書を持たして遣つた使者もテトスであつたとすれば直に説明できるのである。

余輩は「涙の書翰」は後書の終の四章になつて居ると云ふ説を信ずるものである。さう云ふ事にして此の四章を讀むならば目的と文意と良く合することを見るのである。彼が『汝等少しく我が愚を容れよ』と云ふ所、自己の艱難辛苦の歴史を物語る所、己が身にある刺のことまで幾分か打ち明けて語る所、終に『我れ彌々汝等を愛すれば彌々汝等に愛せられず』と云ふ所など、實に涙を以て書かれたものと思はるゝ。見よ偉男子の心臟は張り裂くるばかりである。此等の熱涙は荒野のやうになりかかつたコリント人の心に泌みこんで再び之を花咲く地としたのである。亦心人を動したのである。和解(Reconciliation)即ち仲直りと云ふことは基督教の咲かする最も美しい花であるが、此の美はパウロとコリント教會との間に遺憾なく發揮せられた。パウロが三度コリントに行つた時の心は何うであつたであらうか。想ひやるだに心往く光景である。

故に我等はコリント後書を以てコリント後書とコリント中書と順序を倒にして結び合ふたものと見るのであるが、序に今一つ云つて置きたいことは、後書のうちに前書以前の書翰即ち前々書の斷片が混じて居ると云ふ説である。かかる手紙を書いたことは前書五〇九—十一に『既に書き送れり』『我が汝等に書き送りしは』などあるに照して明であつて書中の主意も幾分か覗ひ知ることが出來る。其の書翰は今日傳はつて居ないと考へるのが普通であるが、茲に後書六〇十四乃至七〇一はこれ即ち其の前々書であると考へる學者があつて、サバチエー、ドヴシウツ、フオン、ソオデン、モアアット等之に贊成する。成るほど六〇十四に『汝不信者と耦ふなかれそは義と不義と何の侶なすことかあらん』とあるは十一節と少しも連續しない。藪から棒のやうな氣がある。十三節と七章二節と續いて見れば良く續くやうである。然してこの六〇十四七〇一は不信者との交りの事に關して居るが、前々書の主意も亦同じやうな事柄に關係して居つたことは前書五〇九以下によりて知ることが出來る。それで此の假説亦た大分理由のあるものであつて、多分さうであらうと思はるる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二章　此の書翰に現れたる教理

此の書翰は一であつても又二通の合したものであるにしても、兎に角切迫した事情の下に書かれた物であるから落ち着いて教理を説くやうな暇はない。故にこの書は羅馬書、エペソ書、ガラテヤ書などと性質を異にして居る。然しながらパウロの深い靈的經驗を説いたものであるから、自然神學の深い道理に徹底し之に根して居る所が處々に現れて居る。この點はピリピ書に似て居る。卽ち、基督教の眞理を活ける眞理として、實際生活の根底として説いた所に此の書の特色を見るべきである。前に語つた如く此の書(少くとも第九章までは)は和解の喜を現した書翰であるが、此の中に現れて居る中心思想も神人の和合と云ふ事にあるのは必ず偶然でなからうと信ずるコリント教會との和合につき苦慮し又成功したパウロの思想此に及ぶのはさもあるべき事である。五〇十一—二十一に其の事が説かれてある。羅馬書五〇十、十一コロサイ書一〇二十—二十二にも和合と云ふことが出で居るが此の處ほど委くない。

一切のもの神より出づ彼れキリストによりて世を己と和がしめ、且つ其の和がしむる職を我等に授く(五〇十八)

神キリストに在りて世を己と和がしめ其の罪を之に負はせず。(五〇十九)

神我等に託り汝等を勸め給ふが如し我等キリストに代つて汝等が神と和がんことを汝等に願ふ(五〇二十)

此處に最も良く現れて居る思想は、神人和合の主動者は神であると云ふことである。其の神は基督に於ける神(God in Christ)である。神は基督によりて和合の道を立てられたのみならず、今現に保羅等によりて己と和がんことを殆んど請ひ求めて居給ふ(五〇二十は改正英譯には As though God were intreating by us と譯してある)。神は怒つて居給ふのをキリストがなだめて人を和がしむると云ふは保羅の思想でない。しかし又和合の主動者は神であるが故に、和合しなかつた故障はもと〱人の方にあつて神の方に無いと云ふことではならぬ。神の方にも故障があつて、猶ほ且つ和合の主動者になると云ふことは啻に考へ得べきことであるのみならず、人と人との關係から推してもしかあるべきことと思ふ。

然らば和合の仲保者なるキリストについては如何に説いてあるか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「シリア人の歌」

小此木松子

「シリア人の歌」といふ名の下に、ナイトと云ふ方の書かれた可愛らしい書物のある事は、多數の方が御承知かとも思ひます。見ても見ても飽かぬ樣な插繪があつて、シリアの牧場に羊飼の爲る業を示してありますが、未だ此本を御覽にならぬ方の爲に、概略其內容を申して見ませう。

詩篇の第二十三篇、彼の美くしいダヴイテの歌は皆樣よく御記憶の事でせう。何ご無く、意味の深い美くしい歌とだけに最初から私も感じましたけれども何しろ、ダヴイテの住むだ國からは程遠い、人情も風俗も異つた此地で讀むでの事ですから、比喩にしても、形容にしてゝ、何となく漠然たるやうに思はれた所もありました。其後此小冊子「シリア人の歌」を讀むで、始めて詩の末々までが分明と解り、從つて、神を讚ふた眞の意味も明瞭になつて來たのでした。話の組立としては、唯年おほいシリア人で牧者の日常をよく／＼見知つた人が、優しく神々しい容態と低く澄んだ調子とで、或異國の家族、殊に愛らしい少女達に語つた物語りといふ事になつて、大體次の樣に書いてあります。

先づ第一には此歌は普通信じられて居る樣に二つの部分卽ち、前者は牧者の比喩、後者は饗宴の比喩とで成つて居るのでは無く、始終一貫して羊飼の生涯を述べ喩へたものです。「エホバは我牧者なり。我乏しき事あらじ」といふのが、總括の言葉で喜悦の情の溢れたもの、是以下は悉く、同じ思ひを繰り返

して、異つた場合に適應たものです。卽ち「エホバは我を綠の野にふさせ、いこひの水邊に伴ひ玉ふ。」とあるのは、牧者が、羊の群を率ゐて綠の野、軟草の多い處に導き、此處で、食糧と休息とを彼等に與へ、水邊に伴つて其渴をいやす事に喩へたものですが、此處に「いこひの水濱」とあるのは意味のある事で、原來此シリア地方一帶は沙漠が多くて、水流が乏しいのですから羊飼が羊を追ふて野を涉つても流るゝ水を見る事は非常に困難です。折ふしあつても、或は岸や水底の險しい爲に、或は水勢の早いが爲に羊は怖がつて近寄りませむ。自然の理法とでも申すのでせうか、これはあの樣に毛の重い動物は、水に濡れて溺れる恐れがあるからでせう。それで、牧者にとつて、一日の中、最心配なのは、適當な水を見附る事なので、此用に當てる爲に、沙地の中、彼地此地に、井戸や泉を掘り、場合に依つては、引水を貯へて置き、此等の場處に羊の群れを連れて來ます。羊にとつては、一日の中、冷い水に喉を濕すのが一番に待たれる時で、唯々、羊飼の熱心と情けと骨折とに依つて、日每に之を得て來るのですが、見渡す限りの曠野、寂として眠つた樣な日盛りに、彼方からも、此方からも、數百の羊群が追はれて此等水源に集る光景は、眞に美事な繪の樣です。一番初めに、羊飼が、奇妙な音を出しますと、羊は皆地面に匐つて靜に待つて居ます。其處で羊飼が、水を汲むなり引くなりしては、飲桶を充してやりますが、是れは流れや湧き水の動いて居るのを飲むとは違つて、快く、靜に、渴を癒す事が出事る爲で「いこひの水」とあるのも此理由から來たのでせう。さて水が一杯になると、牧者は又も口笛の樣な音をたてますが、不思議な事には、羊は決して其飼主の聲を聞き違へませむ。若し、二群三群の羊が、一水源に集つた時にでも、自分の主人と他のとは、よく聞き分けて、一群になつて水際まで進み、愛する人が側近く立つて居るのに安心したらしく、それは〳〵心ゆくばかりも飲むのです。又或場合などには地面に石くれ岩角が多くて、泉や、流水の用ゐられない時があると、牧者は遠く山道にまで水を求めて、僅に走る溪流などを見出でては、或は石或は土を以て、漸くに水を堰き、其後、羊群を連れて渴を癒させるといふ樣な苦心もしますが、我等の靈の爲に御心を苦しめ玉ふ父の神の大御業は此處にもよく表はれて居

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る事と思ひます。「エホバは我霊魂をいかし」とありますのは、「霊魂」といふ字は、ヘブライの原語では「生命」或は「身命」といふ意味ですが、原來、羊といふものは、四方にある種々な危險の地を覺えて居て避けることが出來ませむから、羊飼は、始終、細かく氣を配つて是等の危險から連れ出さなければなりませむ。其上にまた、牧地には、所々、田園、果樹園などもありますが、是等の區域内に迷ひ入つた羊は、其儘地主に渡す事になつてゐます。是等の難に遇はせぬ様に注意をするのが飼主の役目なのですから、此一節を敷衍すれば「エホバは我れを伴ひ還り又危ふき處、禁ある園等より我れを救ひ出し玉ふ。」となりませう。

「名の故をもて、我を正しき路にみちびき給ふ。」屢牧地に足を踏み入れた人の危險は皆同じですが、羊にとつては正しき路をゆくといふ事は、眞に難しい事で、一つの道は斷崖に通ずる、他方のを往けば、歸り路も分らずなるといふ風ですから、何處の群を見ても、何時も飼主が先になつて、牧者としての務めを誇るかの様に、數多の羊群を導いて居ます。又或道は「正しき路」でも、非常な危險を伴ふて居る場合もあります。「たとひ我れ、死のかげの谷を歩むとも禍害を恐れじ」と歌にあるのが此義でせう。斯く「死のかげの谷」と云つたのも、實際の場合まことに適切な事で、或は「盗人が原」とか「烏の谷」といふ様な名の多い土地柄です。「汝、我と共に在せばなり」實に是れよりも深く、信賴の意味を表はす事は出來ないでせう。羊の生涯にはたとへ何の様な危難があつても、どの様な周圍に居ても、唯一人、牧者が居れば滿足です。世の苦しみ惱む者の爲の平和は、眞に美はしく此處に描かれて居ます。唯一人牧者が附いて居る爲に羊の身命にどれ程保護を與へるかといふ事に就ては、嘗て一度ならず目擊した出來事を御話しませう。時としては充分な牧者の用心、羊犬の見張あるにも拘らず、羊の群れの眞中に狼が躍り込むで來る事があります。怖れ驚いた羊共は、彼方此方ととび廻るばかりで、其混亂の中では、現在羊の血を吸ふて居ると知りながらも狼に近寄る事は殆ど出來ませむ。斯ういふ時にでも、羊飼は其執る可き道を誤らず、先づ、群羊から見え、且つ聲の達する爲に、其邊りの小高い處に登り「ウー」といふ様な一種の聲を立てますと、今迄度を失ふて居た羊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、飼主の居る事を知り、忽ちに態度を變へて、皆一齊に狼目がけて押寄せます。いくら、臆病な羊にでも、斯う多勢にヂリ〳〵と寄せられては、狼も負けるより他は無く、大抵は、押し潰されて死ぬのです。實に信ずる所さへあれば、微力な者も大いなる働きを爲し得るものではありまんむか。

「汝のしもと、汝の杖」とあるのも、實際生活を描いたもので、牧者は必ず羊追ひの鞭と、武器代りの杖とを携へるものです。卽ち、一は、平和に居て、群れを導き、他は、事あるに臨むで、是を救ふが爲に用ゐるので「神の我等と共に在す事を遺憾なく表はしたものです。「我れを慰む」といふ言葉の眞の味ひは、多くの羊が牧者の身邊に寄り添ふた樣を見なければなりませむ。「ター……ウー……」といふ樣な羊飼の呼聲すると續いて起る輕く細い羊の足音是等こそは眞に此騷がしい世の中で、神よりの慰安を表はすの聲とも云はれませう。幾千年の昔、ダヴイテの聽いた此音は、今尙彼地に繰り返されて居るのです。

通例は此處までを以て牧者の比喩として、此から後を饗宴の喩へといひますけれ共、其れでは切角の牧人の喩へを半ばで損して終ふものです。「汝、我仇の前に、我爲に筵をまうけ」の筵は單に「まうけの席」とでも云ふ意味で如何なる席を問ひませむ。彼地方に羊飼ふ者の第一の務めは、地と草とを擇び、良き食糧を供する事にあるのですが、是は中々容易な仕事では無く、時には大なる冒險を要する事もあります。或種の毒草は、自然に羊の嫌ふ所となつて居ますけれども、其他の毒草は、牧人自身是を見附けて避けしめねばなりませむ。嘗て我知れる者は、此草の鑑識違ひの爲に三百頭の羊を失つた事もありました。又、或地には蛇の穴が多く、是等は豫め、蛇を除いて置かなければ、彼等は草を喰ふ羊の鼻を嚙みますから、前以て、脂肪で地を燒きなどして退治ます。尙又、牧地の近傍には狼其他の野獸も居ますが、或は長刀を以て是等を殺し、或は石を積むで其巣を塞ぎなどする。羊飼ひの勇氣と技能は實に驚く可きものです。日々の仕事の中に唯一の彼等の誇りとする處は、何時も是等の防禦に關しての事なのです。神が世に立ちての我等に盡し玉ふ御志は、單に屋内に饗宴を張る位の心配では無い、遙に大いなるものである事が是れで解りませう。

此處までゞ、牧人が一日の務めを歌ひ盡したので

すが、是れからは其最後の務めに就て申すのです。夕暮近く群を率ゐて還りますと、羊飼はまづ、柵の戸に立ち杖を以て暫く戸口を閉しては、一疋つゝ羊の身體を調べ、故障が無ければ中に入れます。「我は戸なり」と基督の仰せられた如くに、羊飼ふ者も亦其身を戸とし其手には橄欖油を盛つた角と樹の汁とを持つて岩で痛めた足、荊棘で突いた肩などには、靜に是等を塗り、又弱り疲れたものは、頭と顔をオリヴの油で拭つた後、用意の水を充分に器に盛つて飲ませます。是は單に傷いた者ばかりで無く、弱つた者、疲れた者をも、神は、勞はり玉ふと示したものでせう。「我首にあぶらを注ぎ給ふ。わが杯はあふるゝなり。」

此の樣にして日も暮れ果て、羊の群は、靜に柵の中に寄り集ふて、室には、星の影がきらめく時こそは、深い慰安と平和とを覺えるの時です。「我世にあらむ限りは必ず恩惠と憐憫と我にそひ來らむ。」の聲の發する所は卽ち此處です。さうして疲れた者の群には終日の彷徨も終り、感謝と平和に充ちた眞の眠りに落ち樣とする時に、「我はとこしへにエホバの宮に住まむ」といふ祈りの聲が洩れるのでせう。

○ 池邊義象

心なくなびく烟も市人のおもひの末と見ゆるけふかな

置露はいづくもあれど來む秋は菊の園こそ目には立らめ

○ 辻村靖子

朝夕に露はおけどもこの日ごろ庭の小菊のしをれがちなる

○ 近藤ふぢ子

この秋は君ましまさぬ大にはににほふかあはれ白菊の花

○

千早ふるかみのいかきも秋こえてもみち散りかふかみなひの森

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の消息

◎日本基督教女子青年會

▲別項就職の辭にも見ゆる如く、河井道子氏には、九月より愈本會の總幹事として就職せられたり。

▲今回小橋三四子は事務辭任につき、雜誌編輯のみを依托する事となり、三田靜子氏後任となる。

▲萬國基督教女子青年會委員の一人にして、カリホルニヤの人、ミセス、サリスベリーには令嬢同伴來朝せられたるにつき、二十四日午後三時半より本部に於て兩氏を招待して茶話會を開き、委員役員打寄りて懇親せり。

◎在米日本人基督教女子青年會の創立

別項安孫子餘奈子氏の報告によりて、その創立の次第を委しく知るを得たる在米日本人基督教女子青年會は、愈々七月二十五日、桑港米人女子青年會館に於て發會式を擧行せり。その趣意書幷に規則草案は參考となる節多ければ此處に掲げて、この會の前途に、御祝福の豐かに加はらやう、相共に祈らんと欲す。

趣意書

我が同胞にして永く米國に移り住まんとする者今や漸く多くなり行き、落ち着きて事業に從事し一家の基礎を固め、民族の發展を圖り、人類の幸福を增進せんとする傾向著るしきものあるは誠に喜ぶべき事なり。

此の喜ぶべき傾向を一層助長して永住の觀念を鼓吹し、啻に民族の發展を慮るのみならず、延ては在留國土の文化に貢獻せん爲め西洋の文明を咀嚼し且つ東洋の文明を紹介し、もつて兩者の長所を發揮せんこと在留同胞の任務なり。故に男子は既に各方面に向つて活動せられつゝあり、我等女子も亦之を助け、應分の責任を負はざるべからず。然れど其任重くして且つ大なるが故に之は到底二三子の力をもつて完ふすること難し、又よしや多數者之に力を注ぐとも若し聯絡一致を缺き、其方法宜しきを得ざる如きことあらば矢張無益の努力に終りぬべし。殊に社會組織に缺陷多く、家庭の秩序未だ全く整はず、渡米の事亦意に任せざるものある在米同胞の境遇に處するには特殊の設備と經營とを要するものあり。爰に於てか我等、元來微力にして思慮淺きものながら、深く思ひ、熟く慮り玆に在米日本人基督教女子青年會なる名稱の下に一の團體を組織するに至れり。此れ即ち內、在米同胞の女子一致協力して事に當り外、日米兩國の同志者と聯絡し上述の趣意に添はん爲なり。

抑も基教女子青年會は千八百五十五年英國倫敦に組織せられたるを嚆矢とす。其の目的とする所は女子の體育、智識の進歩を圖り、社交上の機關となり且つ精神教育を施さんとするにあり。青年會の功績、其の目的に伴ふて擧れるを見之に倣ふもの英米其他の基督教國は勿論、東洋の諸國に於ても其の數甚多く千八百八十六年には萬國

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

基督教女子青年會同盟成るに至れり。故國に於ける我が日本基督教女子青年會も亦此の同盟に加入し萬國の基督教女子青年會と氣脈を通じ女子の本分を發揮するに努めつゝあり。

我等の發起する女子青年會は在留同胞婦人の心靈、智識、身體の健全なる進歩發達を圖り且つ家庭及社會の要素として其責に任ずべき資格ある婦人を養成するをもつて目的とす。更に必要に應じて或は新に渡米せんとする同胞女子の友となり、保護者となり、又兒童養育の爲めにも適當の方法を講ぜんとす。願くば大方の諸兄姉以上の趣意を賛せられ同情と援助とを與へられんことを冀ふ。

千九百十二年四月

發記人(イロハ順)

花村高子　谷　道子　竹下千代野子
牛島しめ子　内海しげ子　井木律子
大久保音羽子　大久保わか子　大澤ます子
前野田鶴代子　福島英子　小室衆子
木庭ふく子　小平照子　安孫子餘奈子
佐野梅子　宮崎島子　森下ひろ子
末廣花子　杉村たけ子

同前規則草案

第一條　名稱、本會は之を在米日本人基督教女子青年會と稱す

第二條　目的、本會は日本女子青年の心靈、智識、身體の健全なる進歩發達を圖り且つ家庭及び社會の要素として其責に任ずべき資格ある婦人を養成するを以て目的とす

第三條　位置、本會は之を桑港に置く

第四條　會員、本會の會員を分って左の五種とす

名譽會員　終身會員　維持會員　賛助會員　普通會員

(イ)名譽會員、本會の爲め特別の功勞ある人又は本會と聯絡する他の團體に特別の功勞ある人にして特に推戴せし者を名譽會員とす

(ロ)終身會員、一度に金二十五弗以上を納むる者を終身會員とす終身會員は年會及其他の負擔を賦課せらるゝことなし

(ハ)維持會員、會費として年額金六弗以上を納むる者を維持會員とす

(ニ)賛助會員、會費として年額金三弗を納むる者を賛助會員とす

(ホ)普通會員、會費として年額金三弗を納むる基督教婦人を普通會員とす

會費は之を前納すべし但し會員の都合により之を四期に分納し又は月毎に納むることを得

第五條　會員の權限、普通會員及び基督教婦人にして終身會員維持會員たる者は本會に於ける一切の權限を享有す

第六條　役員、本會に左の役員を置く

會長　副會長　幹事　會計　各一名

役員は幹事を除くの外評議員中より互選す其任期を一ヶ年とす

第七條　役員の權限

(イ)會長は本會を總理し總會及役員會の議長たるべし

(ロ)副會長は會長を補佐し會長不在、疾病事故等の爲め會長の職務を執行すること能はざる場合之が代理をなす

(ハ)會計は本會の會計一切を掌り其の責任に任ず

(ニ)幹事は役員會の決議に從ひ會長の指揮の下に在りて諸般の會務を處理す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第八條　評議員、本會に若干名の評議員を置く

評議員は總會に於て之を會員より選擧す、其任期を一ヶ年とす

第九條　顧問、本會の目的及事業に特別なる同情を寄せらるゝ基督敎牧師及一般信徒中より特に顧問を推薦す、顧問は役員たることを得ざるも本會の特典は之を享有す

第十條　集會、集會を分つて三とす。總會、評議員會及び役員會とす

(イ)總會は每年一回之を開く

總會の定數は本會所在地及附近に定住する普通會員三分の一以上とす。但し定數に滿たずして成立せざりし爲め引續き開くべき總會は此の限りにあらず

總會は過去一ヶ年間執行せし本會の事務及び會計の決算報告を監査す

總會は次年度の會計豫算を議し評議員を選擧すべし

(ロ)評議員會は每年二回之を開く、但役員會に於て必要と認めたる場合は隨時之を開く事を得

(ハ)役員會は每月一回之を開く、但し必要ある場合には隨時之を開くことを得

第十一條　事業、本會の目的を遂行する爲め各種の事業を經營す、事業經營に關しては各部門に應じたる細則を評議員會に於て規定すべし

第十二條　細則、事務執行に關し必要なる細則は本規則に牴觸せざる限り評議員會に於て之を制定することを得

第十三條　補則、本規則の修正改正は會員總會出席者三分の二以上の同意を得るを要す

◎北米合衆國日本女子基督敎年青會の創立

本會は今夏シルバーベーに開かれたる基督敎女子青年會講習會の招待に應じたる一宮操子、小池實惠子、大堀咲子、須藤いえ子、植村環子、渡邊百合子山田琴子の七氏により在米日本婦人の統一、基督敎道德の普及を圖り、併て日本國民たるの精神を保持せんが爲め、創立せられたるものにして、其の規則左の如し。

北米合衆國日本女子基督敎青年會規則

△名稱　本會を北米合衆國に於ける日本女子基督敎青年會と稱す。

△目的　(1)北米合衆國に在る日本婦人の統一を圖る。(2)基督敎道德の普及を圖る。(3)日本國民たるの精神を保持す。

△會員　(1)在米基督信者及求道者の日本婦人にして本會の目的を成就せんことを誓約する者を正會員とす。(2)同しく歸朝者にして本會の目的を成就せんことを誓約する者を補助會員とす。(3)邦人たると外人たるとを問はず本會の目的に贊成し助力する者を名譽會員とす

△役員　會長一名、副會長一名、書記一名、會計一名とす。補助會員中に一名の通信書記を置く。但し役員は基督敎信者に限る。

△役員選擧　役員は滿一ヶ年每に改選せらるべきものとす。會長と會計は六月に、副會長と書記は十二月に改選せらるべきものとす。選擧は正會員の投票に依り多數決の事、但し役員は再選する事を得。

△會費　一ヶ年一弗とし正會員及び補助會員これを分擔す。名譽會員は隨意の事。」

△事業　(一)新渡米者を歡迎しその便宜を圖る。(二)有益なる書物を紹介す。(三)消息(イ)在米會員は廻章により消息を通ず(ロ)補助會員と本部との連絡は一ヶ月一回の通信によりて保たる。

△集會　時と處とを問はず會員の會合したる時に開く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院長診察〔月、水、木、金、午前
入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局 八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱
從停車場半里

電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

National Committee

Headquarters, 12Sanchome Tamachi, Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee
Chairman Women's Sub-committee
World's Student Christian Federation
Miss Matsu Okonogi,
Editor "Joshi Seinen"

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. K. Araki, Osaka
Miss Uta Suzuki	Mrs, Koito Saiki, Kyoto
Miss Matsu Okonogi	Miss M.F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Tei Ninomiya	Miss N.B. Gaines, Hiroshima
Mrs. G. M. Fisher	Miss Wyne-Willson, Nagoya
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
	Miss M. Brownlow, Hakodate

Secretaries
Miss A. C. Macdonald, National, General
Miss Michi Kawai, 〃
Miss Ruth Ragan, National, Office
Miss Margaret L. Matthew, General, Tokyo
Miss G. R. Watney, Associate, Tokyo
Miss Mary Page, Special Worker
Miss Miyo Kohashi, Assistant-Editor "Joshi Seinen"

部數	定價（郵税共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

廣告		
一頁	金六圓	
半頁	金三圓五拾錢	
半段	金貳圓	
一行	金貳拾錢	

大正元年九月廿八日印刷
大正元年十月一日發行

編輯兼發行人 東京市牛込區田町三丁目十二番地 河井道子
印刷人 東京市赤坂區田町五丁目十一番地 齋藤豁
印刷所 東京市赤坂區田町五丁目十一番地 齋藤活版所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わかき婦人へ

村田勤氏著

クリミヤの天使 ナイチンゲール

右はさきに文部省より教育認定圖書として選ばれました

定價五十錢 郵税六錢

法學士 大塚小一郎氏譯

家族と國民

一杯の乳酪は千斛の水に勝り一巻の良書は萬巻の駄書に優ります。本書はハーヴァード大學の新進ゼー・エム・ム氏苦心の名著でありまして、最新科學の智識を以て社會現象を最も根本的最も徹底的に研究したものゆゑ、好學の若き御婦人たちは御通讀なされて、人生の眞歸趣と新理想とを獲得せられ、煩惱や迷霧を一掃遊ばせ。この形質兩全の美しき書を仲秋燈下におすゝめいたします。

定價九十錢 郵税八錢

皆田篤實氏著

母の典型

アウガスチンの母モニカの詳傳であります。表裝も綺麗です。

定價五十錢 郵税六錢

發兌 東京 京橋 銀座 警醒社書店 振替東京五五三番

大正元年十月一日納本發行（毎月一回一日發行）

明治三十七年五月十七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN

Volume IX. October, 1912. No. 8

Greeting ... Miss Michi Kawai
Looking at the Dolls in the Shop Windows ... Miss [illegible]
Present Young Women of Japan ... Miss Ai Hoshino
The Imperial Funeral ... Miss [illegible]
A Chapter from [illegible] Life ... [illegible]
The Japanese Y. W. C. A. [illegible] ... Miss [illegible]
A Study of II. Corinthians ... [illegible]
Songs of the Syrian Guest ... Miss [illegible]
Correspondence
National Y. W. C. A.
Japanese Y. W. C. A. in America
1. San Francisco — [illegible]
2. New York
Editorial Notes

The Official Organ of the National Committee of
Young Women's Christian Associations
of Japan

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA